

雜報

茨城縣下に於ける津浪の調査 水戸測候所

一、本縣土木課にて行はるゝ那珂川河口に近き祝町下の川岸に於ける自記檢潮儀記象に依る。

三日三時八分頃○米二程減水したる後○米三六の浪一回あり
四時五分より五時十分の間に著しきもの三回あり、六時頃より再び著しくなり七時三十五分に最高○米七五を現はし以後十時五十分より漸次弱まりたりしが二十時前後約三時間に互り稍著しきものありたり。

著しきもの十回の平均

最高

高さ○米四二
週期十六分五
時刻七時三十五分
高さ○米七五
週期十分○

二、同上稍上流なる字小川にあるものに依る（時間は正しからざるものゝ如し。）

三日三時四十分より水位稍上昇したる後○米一八程減水し四

時十分に○米三の浪一回あり其後五時前後に互り著しきもの三回あり、又六時より十時迄著しきもの十三回あり漸次弱まりたりしが再び十九時より二十一時三十分迄稍著し。

著しき浪十六回の平均

最高

高さ○米二四
週期十四分○
時刻七時五十七分
高さ○米三四
週期十二分

三、多賀郡大津町役場よりの報告 地震及津浪の被害なし。
四、多賀郡平潟町役場よりの報告 地震の被害なし、津浪と稱する程度のものに非ざるも午前六時三十分迄汐六尺強引きて後大潮となる被害なし。
尙本縣沿岸には被害なきものゝ如し。

發光現象報告

筑波山測候所

三月三日二時三十二分の地震に見たる光。

一、見た場所

筑波町大字筑波東山

見た人

石井富次郎（筑波山測候所小使）

見た時

震動中（最大動直後）

見た方向

東南東と思ふ

光の形

不明（パツパツと光り、電光より速い）

光の色

不明

光つた回数 二 回

備考 此の人は地震に驚いて直ちに起きて居たが、其内グラ〜と大きく来たので驚いて表へ飛び出したが其の瞬間に前記の光りを見た、形や色は明瞭に見る間がなかつた方向は戸口の位置や駆け出して立ち止つたと云ふ場所から考へても東南東であると思ふ。

二、見た場所 筑波町ケーブルカー宮脇停車場

見た人 小池武男(宮脇驛助役)

見た時 震動中

見た方向 南(東京方面)

光の形 電光の様に明瞭ではない、そこに雲があつたらしく、其の後ろでパツパツパツと三回光つた。

光の色 淡青色

光つた回数 三回

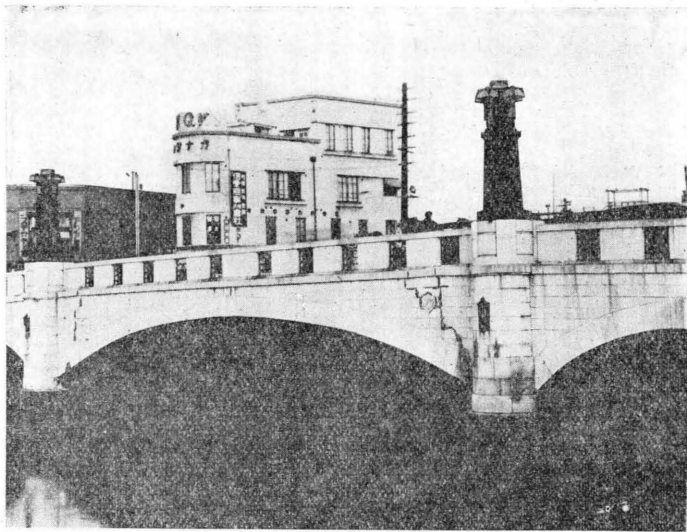
備考 地震に驚いて直ちに表へ飛び出したが、關東大震災の事を思ひ出し、先づ東京方面を見た東京の電燈の光りは平常の如く見へて居た、其の時層積雲の後ろで前記の様に光つたのだと思ふ。(高山四郎)

神奈川縣下地震被害報告 神奈川縣測候所

昭和八年三月三日の三陸沖強震により横濱市中區大岡川に架せる吉田橋(伊勢佐木町と尾上町との連絡橋)橋脚及橋欄は添附せる寫眞A Bの如き損傷を受けたり。

Bは橋欄の損傷最大なる箇所(C圖b)の寫眞にて石枠の前方にのめり出でたり。全體としての同橋損傷の程度はC圖の如

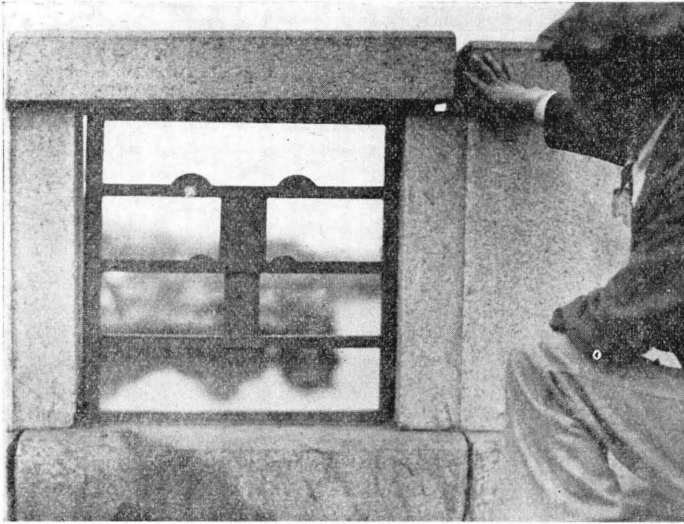
(む望りよ西北)害被の脚々橋田吉(A)



し即ち大體として同橋は北二十度東の方向に震害を被り、其の方向は大略震源に向ふ同橋は「かねの橋」とも呼ばれ明治二十一年十一月竣工せる本邦最初の鐵橋にて大正十二年の大震災にて大

破せしを修繕を加へたるものなり。

因に本所にての最大振幅は三四耗五なり。附近の諸橋梁は檢せしに、羽衣、豊國、蓬萊港の四橋は阿元に小損を被りたり。

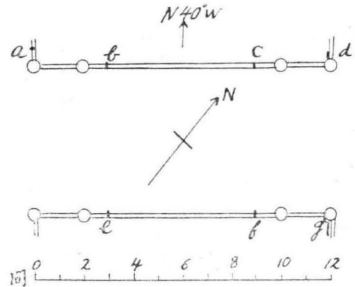


るめのへ前欄の側西北害被の欄々橋田吉 (B)



水るあに所のりよ町生相道車馬 (E)
噴は點の示指りせ水溢し裂破管設埋道
下右眞寫りあに元根の燈街てに所箇水
りは様有る居れ流の水溢は斑白の

圖取見所箇損破橋田吉 (C)



a、笠石少し開口す
b、笠石の開口三・五糎一・五糎下る
c、笠石の開口一・五糎〇・一糎のめ
る
d、護岸上の基礎石少し動く
e、笠石の開口二・五糎〇・二糎のめ
り〇・七糎下る
f、笠石の開口二・三糎〇・一糎下る
g、橋脚の飾石南東の方に少しずれ
る

稻妻様の光に就ての報告 神奈川縣測候所

姥子 三月三日午前二時三十二分地震と同時に戸外を見れば東方の空(當地姥子温泉場より)に當り頻に光る稻妻の如き閃光を認む、直に戸外に出で四方を見廻したるも光は東の空丈けであつた。北伊豆烈震當時現れたるものは赤味掛りたる光にて光度の變化頻りなるも最後迄全く消ゆる事無かりしに、今見たる光は電氣のスパークの如く青白くピカリ〜と頻りに斷續し恰も稻妻の如し。尙北伊豆地震當時現れたるものと、共通點は光度の強弱に従ひ地震の震動に變化を及ぼしたる事なり。即ち強く光りて約四、五秒の後震動は強くなり、光り方弱くなれば震動は弱くなる(北伊豆地震當地は約一、二秒後に震動の變化を見たり)。二時二十四分殊に強く光り、續いて直ちに一、二回弱く、マタ、イテ消ゆ。地震後に強く成り次に弱くなりて止む。

箱根町 地震に付東の方向にピカツと見えました。

もんでびてお丸よりの海震報告

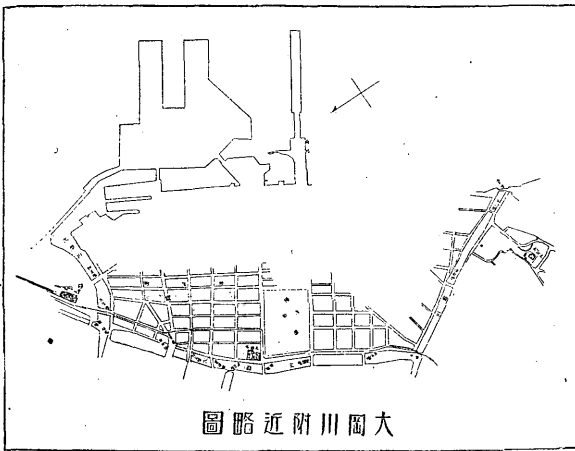
大阪商船株式會社

洋上に於て地震餘波を感じたる件

本船は昭和八年二月十四日北米ロスアンゼルス港を出帆して

即ち羽衣橋は北東部の護岸接續箇所に小龜裂を生ず。豊國橋は

北西、南西、南東の阿元各々約一寸開口す。蓬萊橋は南東の阿元三尺程三角形の龜裂を生じ損傷程度は吉田橋に亞ぐ。港橋は



大岡川附近略圖

市役所寄りの阿元に小龜裂を生ず。即ち吉田橋は被害最も大にして五百米を隔りたる港橋を界として夫れ以南は損害なく、吉田橋の北側に在る諸橋は異常を認めず。

吉田橋の北東約百五十米馬車

道の相生町寄りの所(右圖中×印の所)にある街燈下の水道埋設管破裂し溢水歩道を洗ひたり。(寫眞E参照)右の外異常を認めず。

横濱に向ふ航海の途中同年三月三日午前三時四十分（當時本船時計は東經百五十四度四十五分に於ける眞時を使用し居たり）推測位置北緯四十度三十五分東經百五十一度二十七分に於て突然強激なる推進機の rains の如き震動を約四分間繼續して感じたり。當時の氣象及び海上の状態は左の如し。

風		晴雨計		天候		温		波	
方向	力	二九・九一		晴		空氣	海水	方向	模様
西	四					三五度	四八度	西	四

船體は稍從動し居たりしも震動を感ぜし直前當時の波浪と明らかに區別し得らるゝ階級四なる「ウネリ」を西方より受けたり。依つて直に無線電信を以て銚子無線電信局に照會したる所關東地方に於ては約三分間強烈なる地震を感じたる報知あり後報によりて東北地方の震災を知れり。以上御參考までに御報告申上候也。

本吉郡唐桑村瀧濱に打ち上げられたる巨石

唐桑村小學校中井分校

本吉郡唐桑村中井瀧濱は東海に面した荒濱だが其處に打ち上げられた巨石は高さ四尺經六尺もある巨石である。重さ一千貫

以上もあると思はれ表面は白色にして海底の深所に生えた海草が附着してゐる。茲に餘り人に知れない流失家屋が二ヶ所あり前後に並んだ家の高さは海面から二丈位の上である一戸は魚箱等を製する製造場もあり其の後に三尺位高く一戸あつた。共に一物も止めず唯製造場の井戸のコンクリートが残つて居り上の家は後の小高い便所が残されてゐる。

津浪の夜逃げ残つた前の家（千葉大吉氏、家族十二人）は浪に追ひつかれつゝ上の山に逃るに膝まで水にひたりながら逃げたのださうだ。後の小山徳右衛門氏（家族七名）の家では徳右衛門氏が出漁して留守なので女ばかりと子供が早く逃げたので命は助かつた。

此の附近には未だ其の岩の様な岩が打ち上げられてゐるが如何に自然の暴力の大きかつたかゞ知られると共に、海岸の人の心すべきことである。○繪寫眞第七十六圖參照尙同寫眞及本原稿は本吉郡氣仙沼町石川寫眞館主の厚意に依り國富技師宛撮影送附されたものである。）

海震に關する報告

平安丸船長 金子文左衛門氏報告

本船今復航晚香坡發橫濱向航行中昭和八年三月三日午前二時

三十一分より同三十六分（日本中央標準時）に至る約五分間左の地點に於て激甚なる海震を感じせり。

位置 北緯四十一度五十分、東經百四十九度三十分

狀況 當初恰も機關全速後退せし時の如き震動をせしが瞬時にして上下動甚しく羅針儀爲めに躍出せざるやと思はしめ就眠中の船内一同寢床を蹴つて室外に飛び出だせし程度なりき。

天候 曇 風向 西 風力 四 氣壓 二九・九四

氣溫 零下三度 水溫 一度

直ちに機關廻轉數、塗水、操舵機を點檢せしも何等異狀を認めず依つて海震と斷じ、海岸局銚子を経て氣象臺に通告せり。

發光現象に關する報告

一、大森區新井宿四丁目一二六四窪田瀬吉氏より本臺宛書簡に依れば次の如し。

昨夜の地震に私家族一同戸外に飛出しましたが最大震幅を感ずると同時に北西（寧ろ北よりに）の空より電光一閃致しました御參考迄御知らず致します、普通はピカ〜と瞬きますが昨夜のはピカツと一光りしたのみのやうでした先も先年函根地方大地震（北伊豆烈震）の時は西南方の空にピカ〜と

致したのを見ました。

二、茨城縣平磯町電氣試驗所平磯出張所中井友三氏より本臺藤原技師宛に寄せられた書簡によれば次の如し。

今回の三陸の地震に於て發光現象を相認め申候間御報告申上候。

一、發光現象發見當時の經緯 地震を感ずると同時に起床暫し様子を伺ひ居り候ひしも繼續時間長くして終息の様子も見えざる故に萬一の場合の逃出しの準備として雨戸（南向き）を一枚開けて暫し外を見て居る内に南方の空に發光を認め候。

一、發光の時刻及光の繼續時間 大體の見當で最初に地震の身體に感じ初めてから約三、四分の時刻。光は始んど瞬間的。

一、方向及高度 南方、暗夜のことゝて對照物無き爲精確のこと不明なれども大體の見當で距離約十米の廣場を隔て、存在する平家の屋根の少し上位の比較的低き空間に發見。

一、形及色 形は一つの線より成る圓弧。色はアークの色に近い様な淡青綠色。恰も虹狀で、唯色が單色であると云ふ點が虹と違ふ、圓弧の半徑は大體の見當で普通の虹の半徑と同等か。線の幅は虹の七色の線全體の幅よりも細い様に感じた線は相當はつきりした線。光度は弱い方。尙當夜は晴天、星

光を諸所に認めた。

前述の通りにして此の光が電力線電燈線の切斷等に依り生ずる火花、或はアークに依るものに非ざるとは光の形よりして容易に想像し得られることにして、又當地は水戸に候へ共其の光を認めた方向には斯かる電力線電燈線は無之候(但し當家より南へ數丁先迄は電燈線有之候)以上は小生の住家(水戸市上市備前町)に於ての記事に候同日平磯の役所に出勤しまして此の話を致し申候處平磯でも同時刻頃南方に光を認めたと云ふ者一名有之候但し此の平磯に於ける光はサーチライト状の光だつたと申候但し此の平磯の方の話は確信を以て御紹介出來不申候。

海嘯前後に於ける井水の變化

岩手縣氣仙郡越喜來村
尋常高等小學校校長 小原永太郎氏報告

岩手縣越喜來村に於ける井水の變化

(1) 龍昌寺内の井戸

本村字甫嶺にあり、井戸の深き地上より水面まで約三米、水深一米餘

海嘯前凡そ二十日より濁水、海嘯後舊に復せり。

同寺内に泉水あり、この泉水も同様の變化を見たり。

此の井戸は明治廿九年の海嘯の際も濁水したりといふ。

(2) 平田玉男氏宅の井戸

本村字小泊にあり、井戸の深き地上より水面まで約五米、水深二米。

海嘯前三日より井水混濁、海嘯後も少しく混濁を見たり。

(3) 村社、新山神社々務所の井戸

地上よりの深さ十一米、

海嘯前四、五日より混濁濁水せり、海嘯後五、六日にして舊に復す。

この井戸は如何に降雨等ありても未だ嘗て混濁を見たることなきものなりと云ふ。

(4) 及川義雄氏宅の井戸

字杉下にあり、地上よりの深さ六米。

海嘯後三、四日混濁濁水を見たり。

(5) 熊谷與左衛門氏宅の井戸

字杉下にあり、地上よりの深さ四米。

海嘯前三日より混濁濁水し海嘯後二日にして舊に復せり。

(6) 正源寺内の井戸

字仲崎濱にあり、井の深き地上より二米。

降雨もなかりしに二月半ば頃より一週間程混濁したりと云ふ。

以上の井戸は高地にありて今回の海嘯には直接被害なきものなり。

海震に關するウルツプ丸よりの報告 農林省

農林省所管ウルツプ丸よりの無電報告によれば「三日午前二時三十分鮮崎より眞方位三十六度三十哩にして約一分間強き震動を感じたり」といふ。